

伊方発電所1号機廃止措置の第2段階への移行に関する説明会アンケート結果一覧

開催日:令和8年8月21日

No	問1	問2
	伊方発電所1号機廃止措置の第2段階への移行について、ご意見をお聞かせください。	原子力発電に関連すること、その他のご意見
1	廃止措置にあたって慎重に認可を受けておられるので安心しています。事故がないよう、今後もよろしくお願いいたします。	特になし
2	第2段階では低レベル放射性物質もしくは、放射性物質をふくまない所の解体という事で特別不安は感じられない。	特にナシ
3	安全に作業を進めて下さい。	
4	基本的に第2段階への移行そのものには反対しない。ただし、住民の安全・安心を最優先に考えて進めるべきだと思う。廃止措置は長期間にわたるので、放射性物質や廃棄物の管理の徹底、作業される方の安全性確保、また日頃の迅速な情報公開等を四国電力には求めます。	原子力発電に関連すること、その他のご意見については、現在の電力事情が脱炭素の観点から、否定はしませんが、地域住民の安心、安全を最優先に考え運用していただきたい。
5	第1段階の作業は基より第2段階に置いて行なう作業も大変重要と考えられる。第2段階の作業を開始するに当り安全を最優先とし作業を進めて頂きたい。	現在原発に対し反対運動もあるが、今の日本にとって原発は必要不可欠な施設と思う。今後も安全第1で施設を稼働して頂きたいと思います。
6	計画通り進めると思うが、万が一の事を想定しながら安全作業を進め、隠ペイなくオープンに、都度、広報していただきたい。	(安全安心)の保安全管理の徹底。
7	進捗状況がわからなかったが、第2段階に入るんだと感じる事ができた。安全に最大限注意して取り組んで欲しい。	地方において働く場の確保の為に必要な施設だと思っている。地域経済にとっても重要な施設であるので安心・安全を第一に、今後にあたって欲しい。
8	廃止措置を、安全最優先で進めていただきたいと考えます。また、作業の進捗状況や放射線測定結果などについて、市民にも解りやすく、継続的な情報公開をお願いしたいです。市民が安心できるよう、丁寧な説明を続けていただくことを望みます。	廃止措置は、長期事業である為、安全管理を最優先に取り組んでいただきたいです。万一の事態に備えた防災体制や避難計画についても、市民への継続した説明と訓練をお願いしたいと思います。また、専門用語が多く理解しづらい方もいらっしゃると思うので、理解しやすい資料や説明を心掛けていただければと思います。
9	計画通り廃止措置が進んでいますので引き続き安全第一で事故の無い様慎重に作業してください。	
10	廃止措置に従事される皆様の作業の安全を祈ります。作業員皆様の安全は基より地域の安全にもしっかり御配慮ください。原発はこれからも必要な社会インフラですので、廃止の知見も積み上げてください。慎重に進めて頂いていること安心しました。原子力発電は産業振興や、効率を考えても、はずすことはできないと考えています。付きましては廃炉作業はもとより、新しい技術を導入したMSRや高効率型の火力発電なども同時進行させ、電力の安定供給を計り、もって産業の発展への御力添を拝	技術の進歩により、新しいタイプの発電方法や、より安全な手法も聞いたりします。国策としてしっかりと電力供給に御尽力ください。いつもありがとうございます。MSRの可能性を早く確認し、すでにされているかもですが、ぜひ隣接自治体への相談掛けを行ってもらい、学び舎の誘致なども発案してもらいたいと考えます。特に京都大学のサテライトなど可能性が大きいと思うのですがお願いします。
11	順調に進んでいるようで安心した。今後もお金と時間をしっかりかけ、きちんとした資格や技能をもった事業者や作業員による安全で確実な作業を進めていただきたい。また、必要な情報を適宜公表するようお願いしたい。	安全の確保を第一に原子力発電を推進していただきたい。
12	第1段階の準備期間から第2段階へ移行すると言う事は計画から行動に移る事なので放射性の影響が少ない場所とはいえ、くれぐれも慎重に作業を行うと共に作業される方の安全に気を付けて欲しいと思います。	最近日本中どこでも大きな地震が発生しています。伊方沖にも断層があると聞いていますので、その事が一番心配です。
13	大変な作業だと感じられる。慎重な確認と徹底した準備をして事故が無いように万全をつくしていただきたい。	事故はあってはならないことで、万全を期していただきたい。原子力事故の被害は広範囲に長期に及び、地域社会の生活や自然破壊をもたらします。これらの重大さを考えると廃止の方向を望みます。
14	別段意見はありません。リフォーム活用は不可能なのですか。はいき物については、地下400mに設置されているようです。	資源戦争が世界で起きる中、原子力は必要です。高性能の小型原子力発電が開発されたと聞いている。この点について、積極的に取り組んでください。応援します。賛成です。地域経済の維持・人口対策には必要な施設です。原子力運営を迅速に対応するため、本部が松山であり、八幡浜か伊方に設置して頂きたい。

伊方発電所1号機廃止措置の第2段階への移行に関する説明会アンケート結果一覧

開催日: 令和8年8月21日

No	問1	問2
	伊方発電所1号機廃止措置の第2段階への移行について、ご意見をお聞かせください。	原子力発電に関連すること、その他のご意見
15	問題なく進めてほしい。	原子力発電の安全性については、我々素人では全くわからない。(多分知らされていない) 国、企業が公表しているのも、全ては信用はしていない。 しかしながら、地球温暖化問題を考えた場合、又、費用等も考えて、どちらがいいかと問われると返答は難しい。 これからの科学の進歩を期待しながら、安全なモノを作っていただかなければならないと考えていますし、お願いします。 想定されること以上を想定して、これからも進めていただけたらと思います。 今更、電気のない生活は、私にはできませんので、がんばって下さい。
16	2016年に運転を終了して今2026年、10年が過ぎ今までにもずっと、説明会を開いて下さり、安全を第一に考え、進めて下さっていると信じています。全てが終了する頃には、私は、いない存在ですが、廃止、3号機稼働など全て安全を第一に進めて頂きたい。	現在、そこに存在する以上、安全を考えて頂くしかないと思っています。
17	四国電力に対し、第2段階への移行に当たり、八幡浜市民への丁寧な説明と理解の促進を図ることを求めるようお願いします。	四国電力に対し、伊方原子力発電所の更なる安全性の向上など、必要な防災・安全対策の強化を求めるようお願いします。
18	40年かけて解体作業を実施する中で、第1段階(約10年)が計画通りに進捗している事に安心している。安全に十分に配慮しながら、常に情報開示を行い、解体計画の作成、安全貯蔵・放射能の減衰を約15年かけて確実に進めて欲しい。	二酸化炭素を排出しない安定的にエネルギーの供給が出来る事が最大のメリットであると思う。しかし、放射性廃棄物の処理が困難であり事故が発生するとリスクが高い。 安全第1主義で、今後とも電力を供給して欲しい。安全対策に終わりなし。
19	今後とも安全第一、無事故での進捗をお願いします。	上記に同じ。
20	適切なスケジュールで進めて頂きたい	些細な事故でも公表しなければならないなら、住民には悪いイメージが残りやすい。最新の注意を払って進めて頂きたい。
21	安全管理に留意し、事故のなき様慎重に進めて下さい。	稼働可能なものは、慎重に運転し、電力の安定供給に努めて下さい。
22	出せる限り具体的・詳細な情報を公開する姿勢が欲しい。 質疑応答の様子はやや不安に思った。	非常に多数の人の財産権ほか基本的人権に影響する発電方法であり、完全に国の管理下に置くべきではないか。 放射性廃棄物の保管にかかるコストは無限大であり、少なくとも地層処分の手法が確立されていない現時点での稼働は、将来に生きる全ての人々に対して無責任であると考えている。
23	綿密に計画されていて信頼できると思いました。	出口のトイレと形容されるように、クリーンなエネルギーと期待された過去より、やっかいもののイメージが強い。 将来的な大事故にならないよう、廃炉を進めてほしい。
24	廃止措置の進捗状況や安全対策についてしっかりと確認し、市民の声を行政や事業者に届けていきたい。安全を最優先に、情報公開を徹底し、市民が安心できる廃止措置を進めていただきたい。	
25	1号機廃炉の2段階への移行については、対象廃棄物の放射能レベルは低いものではあるが、解体作業や保管について、地震対策も含めて気持ちを緩めることなく、安全管理の徹底をすること。 第2段階で発生する低レベルの放射能廃棄物の最終処分場所がまだ決まっていないと聞いているが、発電所敷地内に継続して保管することのないよう、早急に最終処分場所の確保をすること。	
26	第2段階移行について、以下のような懸念がある。 ①解体作業に伴う放射線物質の飛散リスク 解体時に発生する粉じんの飛散防止効果と監視体制はどうなっているか。 ②作業員の被ばく管理 被ばく線量の上限設定や実態の公開方法、健康管理はどうなっているか。 ③解体で発生する放射性廃棄物の保管 固定廃棄物貯蔵庫で安全確実に容量超過することなく保管できるのか。 ④長期工程の中での人材、技術の継続性 第2段階だけで15年を要するが、人材確保や委託先変更などのリスクをどう考えているか。	石油価格の上昇などにより原発の需要が高まっているが、事故や廃炉のリスクを考えると永久に依存すべきことを避けなければならない。より安全で高効率な核融合や水素発電などの新しいエネルギーへの変革を進めていくべきである。現在の原発の安全性を更に強化しつつ両面から取り組むべきである。

伊方発電所1号機廃止措置の第2段階への移行に関する説明会アンケート結果一覧

開催日:令和8年8月21日

No	問1	問2
	伊方発電所1号機廃止措置の第2段階への移行について、ご意見をお聞かせください。	原子力発電に関連すること、その他のご意見
27	先人から受け継いだ農地を守り、自然界の大きなエネルギーに向かい打ちながら営む農業者は、「今年こそは一！」と息こみながら、学び、努力で消費者が望む柑橘作りに邁進しています。廃止措置の段階で「万一放射能が一。」農家の生活に明日が、未来が全滅となり「みかんとさかなのまちやわたはま」は崩壊の道をたどるでしょう。保障の見えぬ不安は、農業者ならばだれしも日々、声に出さずとも思っていることでしょう。「安全性の確保を大前提」に責任あるエネルギー政策を進めてほしいと望みます。	
28	廃炉作業そのものは、地元の雇用を確保することになるので賛成だ。だからこそ、安全対策と、作業員の労働環境や被曝を防ぐ対策、健康管理を徹底して、長く働きたいと思える労働環境を整えてほしい。その方が、作業員の確保にもつながる。これから第3段階、第4段階と進むにつれ、被曝のリスクが高くなっていくが、下請け孫請けと何段階も外注におろして行って、危険な作業を低賃金の労働者に押し付けて、使い捨てにするようなことがないようにお願いしたい。 低放射能の解体物の保管は、原子炉補助建屋を撤去したところに鉄の箱などに厳重に保管するとのことだった。しかし30年後、1号機を完全に解体した後は、どこに保管するのか？固定化につながらないか心配だ。	原子力発電は、安全対策の費用も入れれば、決して安い発電方法ではないし、万一過酷事故を起こせば、賠償額は莫大であり、たとえ賠償金をもらったとしても、その苦悩に見合ったものにはならない。一度失った命や健康、農産地といった大切なものは、二度と取り戻すことはできないからです。 また、いくら何重にも安全対策をしたとしても、戦争、大災害、人的誤作動など、想定外の理由で事故は起こり得ます。 その時、伊方町、八幡浜市の全住民を被ばくさせず、健康を維持したまま避難させることは不可能です。佐田岬半島という地滑りしやすい半島の付け根に原発をつくったので、伊方町民は、空と海以外では、原発に向かって避難しないといけな。八幡浜市民も、5から15キロの距離にほとんどの住民が住んでいます。能登半島地震の被害を見ても、熊本地震を見ても、直下型地震が起ければ、自宅待機は不可能です。夏の暑い体育館に締め切って被曝を防ぐことはできません。 福島原発事故の教訓は、原発は人の手には負えないということ。自然エネルギーを生かした発電方法に切り替えて、蓄電技術も活かした発電所に切り替えて、3号機の廃炉も1日も早く決断して頂きたい。廃炉には何十年もかかり、地元の雇用も守れます。そのような形で佐田岬半島を、自然豊かな安全な地域になるよう、これからもサポートしていただきたいと思います。
29	伊方発電所1号機の廃止措置第2段階への移行については、原子力規制委員会による確認・認可を踏まえ、計画に沿って進められるものと理解しています。 一方で、第2段階では約15年間にわたり、管理区域内の設備の解体・撤去が行われることから、これまで以上に安全確保を最優先に、慎重に進めて頂きたいと考えます。 特に、作業に伴う放射性物質や廃棄物の管理、作業中の異常時の対応について、国・県・事業者が責任を持って確認するとともに、八幡浜市を含む周辺自治体や住民に対して、分かりやすく継続的な情報提供を行っていただきたいです。 廃止措置は約40年という長期にわたる計画であるからこそ、その時々状況を丁寧に確認し、市民の不安や疑問に耳を傾けながら、安全・安心を第一に進めていくことを望みます。	エネルギー政策については、安全性を最優先としながら、安定供給、経済性、環境への影響など、さまざまな観点から考えていく必要があると感じています。 原子力発電についても、単純に賛成・反対という二者択一で考えるのではなく、その必要性やリスク、課題について正確な情報を共有し、将来世代に責任を持てるエネルギー政策を考えていくことが重要だと思います。 特に、伊方発電所は、八幡浜市を含む周辺地域の住民にとって身近な存在です。平時から、国・県・事業者による十分な情報公開と、地域住民が疑問や意見を伝えられる機会を継続して確保していただきたいです。
30	第1段階の実施作業が安全に順調に推移し、第2段階着手前における今回提出の変更許可申請書の提出及びその許可の取得について、十分な説明と関連する資料を拝見して理解を深めることができました。 第2段階の移行において、先ずは現場作業にかかる方々の被ばく低減対策の完全実施と周辺地域への飛散防止の徹底をお願いします。またクリアランス制度について、きちんと広報すると共に、制度運用の際は速やかな公開をお願いします。	現時点で特にありません。
31	解体撤去作業に従事される方々の被ばくについては、しっかりと対策をお願いしたい。市民の皆様に対しましては、放射性物質が飛散しないよう地域の環境に重点をおいて作業してほしい。	審査結果を具体的に情報公開してほしい(放射性廃棄物について)

伊方発電所1号機廃止措置の第2段階への移行に関する説明会アンケート結果一覧

開催日:令和8年8月21日

No	問1	問2
	伊方発電所1号機廃止措置の第2段階への移行について、ご意見をお聞かせください。	原子力発電に関連すること、その他のご意見
32	透明性と迅速な情報公開について リアルタイムな情報発信 解体撤去作業に伴う日常の安全データやトラブル発生時の報告は、速やかかつ分かりやすく住民に公表すること。 対話の場の継続について 説明会を単発で終わらせず、作業の進捗節目ごとに住民向けの説明会や意見交換の場を設けること。 安全対策と防災体制の強化 被ばく、飛散防止の徹底について 管理区域内の設備解体(切断・撤去等)における放射性物質の飛散防止対策や、作業員の安全管理を厳格に行うこと。 避難計画、防災対策との連動について 万が一の事故や自然災害に備え、周辺自治体や地域住民と連携した防災訓練・避難ルートの点検を継続すること。 低レベル放射性廃棄物の処分方針の明確化 敷地内処分の長期化防止について 「恒久的に保管されることがないよう」という県の要望通り、最終的な処分先や搬出計画の具体的なスケジュールを早急に明示すること。 クリアランス制度の丁寧な説明について 再利用や一般廃棄物として処理される「クリアランス物品」について、風評被害を生ませないための正確な情報啓発を行うこと。 地域経済、雇用と人材育成 地元企業の活用と技術継承について 長期にわたる廃止措置作業において、安全性を確保した上で地元企業の参入機会や地域での雇用、人材育成を積極的に支援すること。 3号機の安全対策への確実な還元について 1、2号機の廃炉プロセスで得られたデータや知見を、現在稼働している3号機の安全運用に確実にフィードバックすること。 以上を要望したい。	我々の生活の中で原子力発電はなくてはならないものとなっており、完全な安全性は払拭できないものの、未だそれにとって代わる資源が十分でないのが現状である。 市民の安全安心な環境を保持しつつ、引き続き運営願いたい。 また、愛媛県は大きな企業が少なく、住民雇用が十分ではないため、率先して地元の企業を使うことを要望したい。